

大府市ヤングケアラー支援アンケート調査結果（概要版）

大府市では令和4年度に愛知県のヤングケアラー支援モデル事業について委託事業として受託し、ヤングケアラー本人および家族への支援事業を実施しています。その事業における市の独自提案として、市内在学の小学生、中学生、また小学校・中学校・高等学校の教職員の皆様へアンケート調査を実施しました。

I 調査の概要

1 調査目的

本調査は、市内の小学生および中学生、また学校教職員を対象にヤングケアラーの認識およびヤングケアラーについて現状を把握し、今後の支援策策定の基礎資料とすること、またヤングケアラーに関する認識を高めることを目的として実施しました。

2 主な調査項目

教職員向けアンケート：ヤングケアラーと感じる子どもの有無、ヤングケアラーの子どもを支援するうえで重要だと思うこと、ヤングケアラーのイメージなど

小中学生向けアンケート：家族のお世話の状況、普段の生活の状況、ヤングケアラーという言葉の認知度など

3 調査対象および回収率

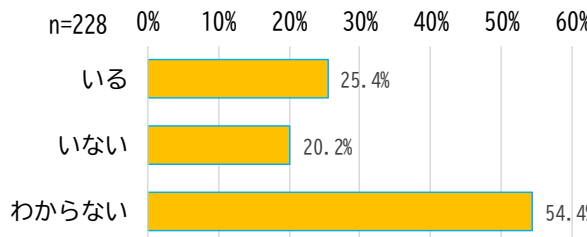
調査対象	・大府市内公立小中学校に在籍する児童生徒（小学5年生および中学2年生） ・大府市内公立小中学校および市内県立高等学校に勤務する教職員（管理職を除く）
調査方法	Web 回答方式
調査期間	令和4年12月13日～12月23日
回収数および回収率	教職員：228件（34.3%） 小学5年生：254件（27.5%） 中学2年生：445件（51.4%）

II 調査結果

教職員向けアンケート結果

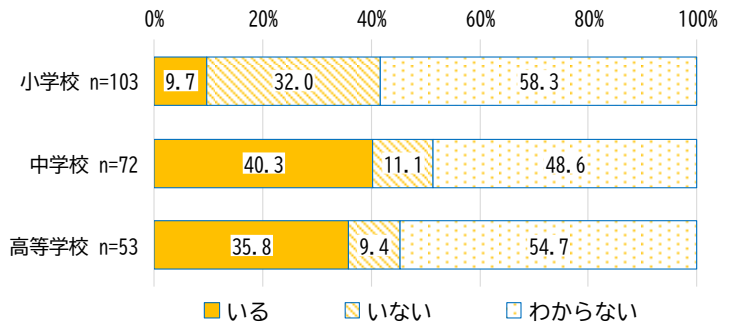
問 現在、貴校にヤングケアラーではないかと感じる（可能性も含めて）子どもはいますか。把握されている範囲でお答えください。（あてはまるもの一つ選択）

勤務校でヤングケアラーではないかと感じる子どもの有無は、「いる」が25.4%、「いない」が20.2%となっています。また「わからない」が54.4%で最も高くなっています。



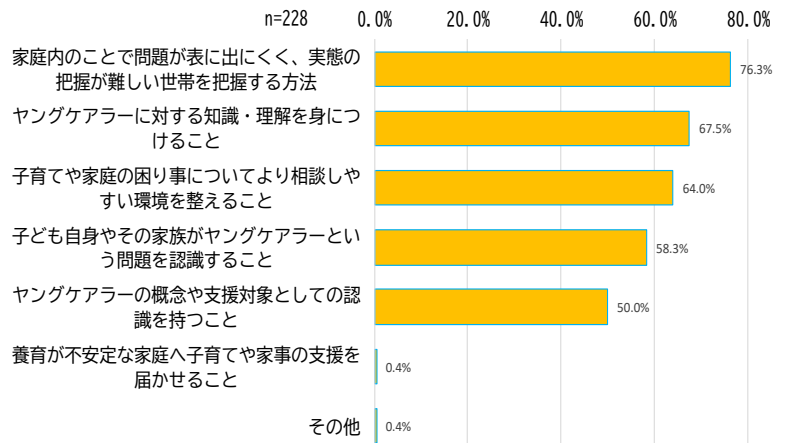
問 現在、貴校にヤングケアラーではないかと感じる（可能性も含めて）子どもはいますか。把握されている範囲でお答えください。（あてはまるもの一つ選択）

学校別にみると、中学校、高等学校で「いる」がそれぞれ40.3%、35.8%となっており、「いない」の11.1%、9.4%を上回っています。小学校では「いる」が9.7%、「いない」が32.0%で「いない」が「いる」を上回っています。



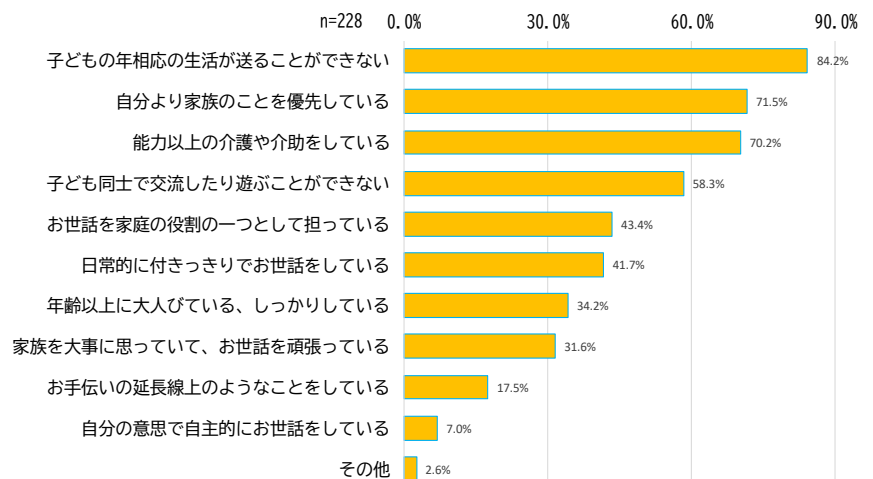
問 ヤングケアラーの子どもを支援する上で重要だと思うものを選んでください。（あてはまるもの全て選択）

ヤングケアラーの子どもを支援する上で重要だと思うことは、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい世帯を把握する方法」が76.3%で最も高く、次いで「ヤングケアラーに対する知識・理解を身につけること」(67.5%)、「子育てや家庭の困り事についてより相談しやすい環境を整えること」(64.0%)の順となっています。



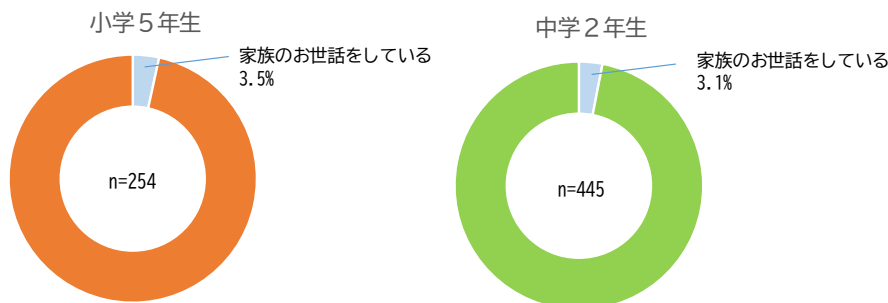
問 あなたが考えるヤングケアラーのイメージについてあてはまるものを選んでください。（あてはまるもの全て選択）

ヤングケアラーについてのイメージで該当するものは、「子どもの年相応の生活が送ることができない」が84.2%で最も高く、次いで「自分より家族のことを優先している」(71.5%)、「能力以上の介護や介助をしている」(70.2%)、「子ども同士で交流したり遊ぶことができない」(58.3%)の順となっています。



小学生・中学生向けアンケート結果

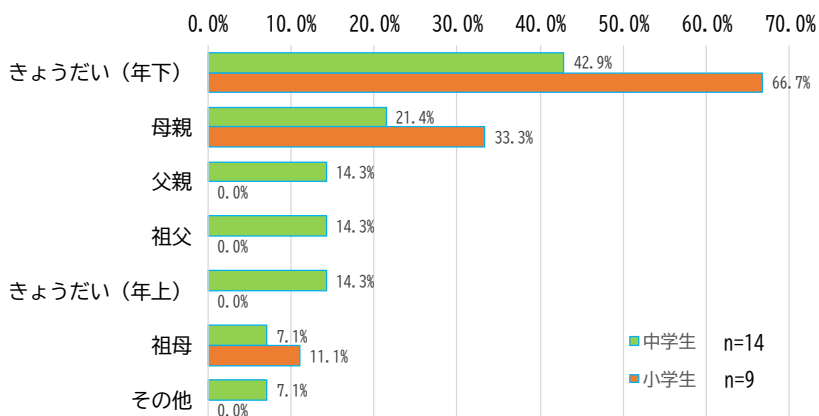
お世話が必要な家族をお世話していると回答した人は、小学生では 9 件で、中学生では 14 件となっており、家族のお世話をしている子どもは、小学生全体では 3.5%、中学生全体では 3.1%となっています。



問 あなたは誰にどのようなお世話をしていますか。(それぞれについてあてはまるもの全て選択)

<お世話の対象>

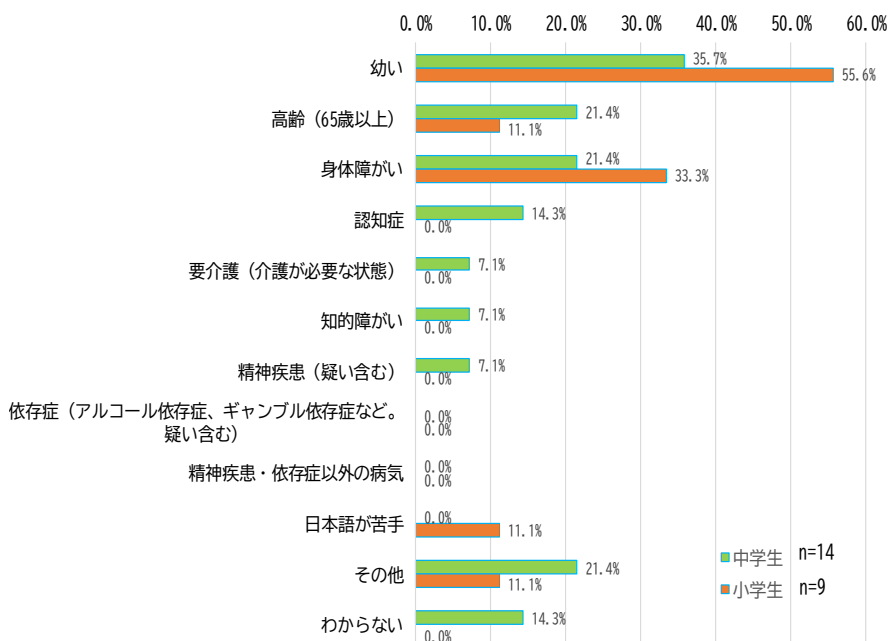
誰にお世話をしているかについては、「きょうだい(年下)」が小中学生とも最も高く、小学生は 66.7%、中学生は 42.9% となっています。次いで「母親」が高くなっており、小学生では 33.3%、中学生では 21.4% となっています。中学生では「きょうだい(年下)」と「母親」の他に「父親」、「祖父」、「きょうだい(年上)」「その他」が回答されています。



<お世話をしている人の状況>

お世話をしている人の状況は、「幼い」が小中学生とも最も高く、小学生は 55.6%、中学生は 35.7% となっています。中学生は「幼い」に次いで「高齢(65歳以上)」「身体障がい」「その他」がともに 21.4% となっています。

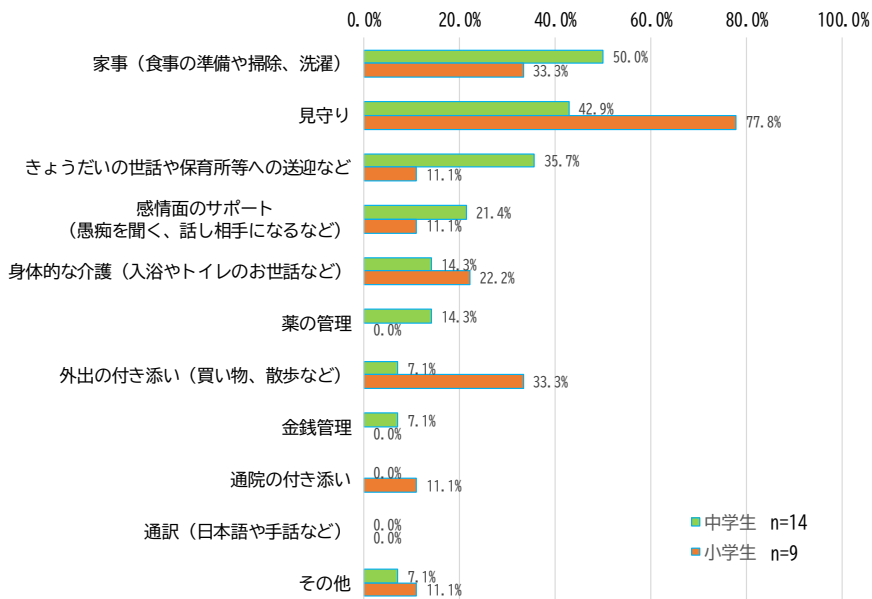
小学生は「幼い」に次いで「身体障がい」が 33.3%、「高齢(65歳以上)」「日本語が苦手」「その他」がともに 11.1% となっています。



問 あなたは誰にどのようなお世話をしていますか。(それぞれについてあてはまるもの全て選択)

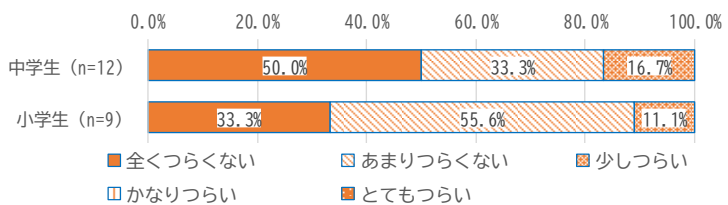
<お世話の種別>

お世話の種別は、中学生では「家事」が50.0%で最も高く、次いで「見守り」(42.9%)、「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」(35.7%)、「感情面のサポート」(21.4%)の順となっています。小学生では「見守り」が77.8%で最も高く、次いで「家事」「外出の付き添い(買い物、散歩など)」(ともに33.3%)の順となっています。

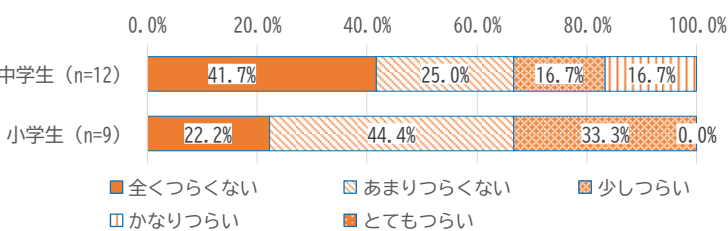


問 お世話をすることについて大変さやつらさを感じていますか。あてはまるものを選んでください。(それぞれについてあてはまるもの一つ選択)

お世話をすることについての体力面のつらさは、中学生では「全くつらくない」と「あまりつらくない」をあわせた「つらくない」が83.3%となっています。小学生では「全くつらくない」と「あまりつらくない」をあわせた「つらくない」が88.9%となっています。

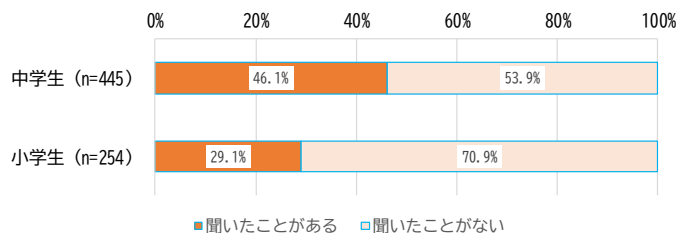


気持ちの面のつらさは、中学生では「少しつらい」と「かなりつらい」をあわせた「つらい」が33.4%となっています。小学生では「少しつらい」が33.3%となっています。



問 あなたは「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがありますか。(あてはまるもの一つ選択)

「ヤングケアラー」という言葉の認知度は、中学生では「聞いたことがある」が46.1%、「聞いたことがない」が53.9%となっています。小学生では「聞いたことがある」が29.1%、「聞いたことがない」が70.9%となっています。



調査結果に関するお問い合わせは、**大府市役所 福祉部 福祉総合相談室** (TEL 0562-45-6219) まで